

国語 第1学年 ぶんをつくろう

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。この後に貼る指導案を、私の学級に合わせて書き直してください。最初に、児童の既習事項と今の学習状況、読む・書く・話す・聞く際に必要な配慮、学校の年間計画と使える時間、研究授業で確かめたいこと、使える資料と道具を一項目ずつ質問し、回答を待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、次のねらいを保ってください。だれが・何が、どうするかを組み合わせ、意味の通る文を書く。目標・評価規準・単元計画・本時の活動を対応させ、本文を省略せず書き直してください。教材本文・台詞・挿絵・教科書固有の問題文は転載しないでください。教材名と公式の総時数は出典を照合し、独自の時間配分は授業案として区別してください。人数や分数を事実のように補わず、回答がない条件は未確認としてください。児童の反応は予想と明記してください。三重の指導案の見出し順を保ち、先生向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更箇所と、その根拠となった回答・出典を最後に示してください。直す対象の指導案を以下に貼ります。

———ここから直す対象の学習指導案———

第1学年 国語科学習指導案

1 単元名「ぶんをつくろう」 教材名「ぶんをつくろう」

2 単元の目標

文の中における主語と述語との関係に気づくことができる。〔知識及び技能〕(1)カ)

語と語との続き方に注意することができる。(B(1)ウ)

だれが・何が、どうするかを組み合わせ、意味の通る文を書く学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①文の中における主語と述語との関係に気付いている。〔知識及び技能〕(1)カ)

〔思考・判断・表現〕①「書くこと」において、語と語との続き方に注意している。(B(1)ウ)

〔主体的に学習に取り組む態度〕①だれが・何が、どうするかを組み合わせ、意味の通る文を書く学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

だれが・何が、どうするかを組み合わせ、意味の通る文を書く。この教材では、主語と述語を結んだ文と、対応を直した自分の短い文章を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

(2) 児童について（学級の実態を書く）

(3) 指導について

独自例「ねこがはしる」と「ねこはしろい」を使い、主語と述語を線で結ぶ。自分の文からまず「どうした」を探し、その動作をしたものを確かめる。想定する難しさは、主語と述語を遠くに離して別の人の行動につなぐ、述語を省いたまま文末にする。評価では、語と語との続き方に注意しているかを、主語と述語を結んだ文と、対応を直した自分の短い文章と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全4時間）

第1次 第1時：○誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。短い文のだれとどうするかを結ぶ。

評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第2～3時（本時）：○短い文のだれとどうするかを結ぶ。組合せが合わない文を比較する。自分の文を直す。直した理由を説明する。 評価：思①（発言・活動中の記録・作成物）

第3次 第4時：○読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。学習前後の記録を比べて、確かめたことをまとめる。 評価：態①（学習前後の記録と見直しの

理由)

6 本時の指導 (2/4)

(1) 本時の目標

語と語との続き方に注意することができる。(B(1)ウ)

(2) 学習過程

【導入】

学習活動：誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。

○「だれがしたことか、文の終わりまで同じ相手に伝わりますか」

【めあて】だれが・何が、どうするかを組み合わせ、意味の通る文を書く。

予想される児童の反応：・動いているのは小鳥だから、「小鳥が鳴く」とつながる。

指導上の留意点：最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。

【展開】

学習活動：○「だれがしたことか、文の終わりまで同じ相手に伝わりますか」

短い文のどれとどうするかを結ぶ。組合せが合わない文を比較する。自分の文を直す。直した理由を説明する。

読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。

予想される児童の反応：・動いているのは小鳥だから、「小鳥が鳴く」とつながる。

・「ぼくは」の後に妹の動きが続いていて、変だと思う。

・文を分けると分かりやすい。

指導上の留意点：独自例「ねこがはしる」と「ねこはしろい」を使い、主語と述語を線で結ぶ。自分の文からまず「どうした」を探し、その動作をしたものを確かめる。

想定する難しさ：主語と述語を遠くに離して別の人の行動につなぐ、述語を省いたまま文末にする。

評価では、語と語との続き方に注意しているかを、主語と述語を結んだ文と、対応を直した自分の短い文章と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

評価：思① 語と語との続き方に注意している。(発言・活動中の記録・作成物)

【まとめ】

学習活動：【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。

主語と述語を結んだ文と、対応を直した自分の短い文章を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。

予想される児童の反応：・文を分けると分かりやすい。

指導上の留意点：教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。

評価：態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画 (縦書き・右から左へ)

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「だれがしたことか、文の終わりまで同じ相手に伝わりますか」。中央は、主語と述語を結んだ文と、対応を直した自分の短い文章に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

